

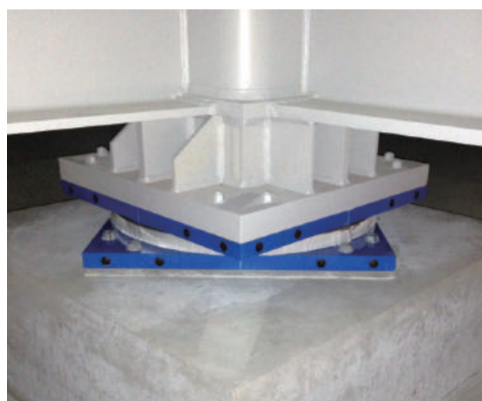
金属製品の精密加工から大規模構造物まで 幅広い顧客ニーズに対応

日本の トップランナー企業

扶桑機工(堺市堺区)は大規模構造物向け鉄骨部材や免振・制震装置のOEM(相手先ブランドによる生産)を受託する加工メーカー。石油掘削用シームレスパイプなど、特殊鋼管の加工も長年手がけており、そこで培ってきた高精度の生産加工技術を建築分野に応用し、大手鉄鋼メーカーなどの主要顧客から厚い信頼を集めている。また、大学などに試験体や試験片を供給してきた実績のほか、プレス機などを自社内で設計・製作してきたノウハウを生かし、今後は構造物試験機メーカーとしての飛躍も目指す。

免震装置を 製造

2021年6月、新確保できたし、免震装置に大正工場(大阪市大正区)を開設計、これまでの大きな話。これまで本社工場にあり、鉄骨部材を製作するに立って機能を移した。専門業者は一般にファ一方、本社工場ではその空きスペースを利用。その中でも扶桑機工は、日鉄エンジニアリングから製造を請け負っている免震装置「NS-SSB」の組立を得意とする。これまで立ててや保管場所を拡大した。渡瀬昌明社長は「OEMはわが社にとって事業の柱。鉄骨部材部門は本社工場よりも面積の広い場所を



▲OEM生産する免震装置

渡瀬社長は強調する。この技術を生かし、1970年代後半から建築分野に本格的に進出した。競合する井管(ゆせいかん)は、シームレスパイプをねじ継手によってつないで何千メートルの長さにして使用するため、扶桑機工が担当するねじ加工には高い精度や品質が要求される。「この

大学や大手ゼネコンの研究部門向けに、構造物の耐震性などを確認する。元々、OEM製品を製造する際に使うプレス機を、設計・製作も展開している。鉛直と水平荷重を同時に加えることができる圧縮・せん断試験機を中心とした、これまでに計14基納入した。最大荷重2000トンの前後の大型構造物向け試験機も数多く手がけている。また、試験機の改造や試験体

油井管加工で 技術磨く

1969年、大阪市で創業。住友金属工業(現日本製鉄)向けに鋼管試験片の切断・切削加工から事業をスタートし、特殊鋼管の加工や鉄筋継ぎ手の製造を長く続けてきた。特に石油や天然ガスの掘削現場で使用する油井管(ゆせいかん)は、シームレスパイプをねじ継手によってつないで何千メートルの長さにして使用するため、扶桑機工が担当するねじ加工には高い精度や品質が要求される。「この



▲東京工業大に納入した構造物試験機

試験機事業を 強化



▲本社工場

2000年代半ばに構造物試験機の設計や製作を手がけ始めた。今後は営業活動に力を入れてきたという。「先ず、建築だけでなく、土木分野の需要掘り起こしも目指す。最大荷重1000トンの超試験機を中心とする試験機の受注が当面の目標だ。2019年に創業50周年の節目を迎えた。一人が顧客の立場で考えて行動し、「こんなものが作れないか」と